

質問

町内の産業振興のための 条例制定が必要だ

内田雅人 議員

町長 今後検討する



問 奥出雲町の地域経済の持続的な発展のためには、商工業や農業、畜産などのこの町の産業の振興が必要だが、町がバックアップする関係機関において産業振興に対しての意識が希薄であると感じる。食材や物品を消費する場合、やはり町内の事業所を優先すべきだ。意識と実態をどう捉えるか。

答 各学校の給食や奥出雲病院、福祉施設、奥出雲振興の食材は地産地消を意識して、できるだけ地元で購入している。

答 安部教育長
地元での用具の購入について校長会でも話をした。事業者のほうからも学

校に商品の紹介など営業努力をして頂きたい。お互いに総合的に地元で買ったほうが良いという姿にしていけたらと思う。

問 産業振興は当然町全体で考えるべきものだ。奥出雲町の地域経済の持続的発展と、市民生活の向上への寄与という観点で、町と関係団体と事業者と町民の各主体が、地域経済の好循環を意識して協力する必要がある。各主体の役割や責務を明確に示して、基本的な方向性を定める産業振興基本条例を定めるべきだ。

答 食と農の町民条例はあるが、議員提案の条例と若干違うので今後検討する。

問 やまなみ街道が開通して3ヵ月となるが、奥出雲町へ車の流れの変化と観光地などの集客への影響をどう捉えるか。

答 GW期間中の観光施設の入り込み客数は前年比9%減少したが、増加した施設もある。開通によりR314の交通量は減少

、また広島方面から所要時間が減り来町しやすくなった面もある。このような車の流れに柔軟に対応し、観光振興に役立てたい。

問 やはり目的がないとそこに行かない。一気に奥出雲や松江に行った方に奥出雲町を回っていただくような仕掛けを考えるべきだ。「鳥根には本物がある」とPRされているが、本物があるというフレーズはキーになるのではないか。また全国には奥出雲町のように「奥」の付く地域がたくさんある。それらの自治体と連携してイメージアップ戦略ができないか。本物は奥にあるというキャッチコピーも考えられる。今後の観光戦略を問う。

答 雲南広域連合が主体となつて雲南観光ネットワーク協議会を設立して取り組んでいる。また高野インターからの誘客促進を安来市と連携してPRを強化している。今後はたたらば香番地から



奥出雲町も産業振興の条例化が望まれる

の誘客対策も検討する。たたらを活用したアクシヨンを起こしていきたい。

問 施行された特別措置法によって空き家に対しての行政の権限が強化されたが、今後のスケジュールと体制は、また代執行はいつころになるか。

答 国の説明会や鳥根県空き家等基盤強化推進協議会の会議を踏まえ、条例制定に向けて検討する。代執行まではある程度の時間を要する。

問 所有者に対しての相談窓口設置や特定空き家等にしなないための管理を促す啓発活動の考えは。

答 重要なことと認識している。今後検討する。